

花のお江戸を歩く会

新緑が清々しい散歩道

「正覚寺～林試の森～円融寺～雀のお宿緑地公園」

緊急連絡＝90985831528

＜散歩道のご案内＞

目黒は豊かな水辺や自然環境が相まって江戸近郊農村地として重要な役割を果たしてきました。今でも中目黒駅近くの神社では飲料可能な湧水がわき出ています。また歴史を彩った古社・名刹・庚申塔・石仏なども多く江戸の著名な散歩コースとして親しまれています。今回は、目黒の江戸近郊農村の歴史と豊かな自然環境を改めて実感できるオリジナルコースを企画しました。連休でゆったりとした東京を存分に楽しみましょう。

＜散歩道の順路＞ T→トイレ有り

東京メトロ「中目黒駅」→山手通り→目黒川船入場跡T→正覚寺T（先代萩ゆかり）→めぐろ歴史資料館跡T→中目黒八幡神社（飲用可湧水あり）→なべころ坂→藤の庚申→現代彫刻美術館T（小休息）→馬喰坂庚申塔→十七が坂→十七が坂庚申塔→山手通り→【ランチ予定】→目黒寄生虫館T（見学10分）→不動公園T→目黒不動尊（五色不動）→石古坂→林試の森公園T（自然散策）→小山台公園T→26号線通り→清水池公園T→碑文谷鬼子母神→円融寺T→立会川緑道→碑文谷八幡宮→サレジオ通り→サレジオ教会→錦さくら通り→雀のお宿・名主屋敷T→環七通り→桜森稲荷神社→呑川緑道→メトロ東急東横線「都立大学駅」解散

＜個別ガイド＞

① 目黒川船入場跡T

昭和初期まで、江戸湾からの船を導き入れる船入場だったという。またこの目黒川は、桜の名所でもある。

② 正覚寺T（先代萩ゆかり）

実相山正覚寺は、元和5年（1619）に日栄上人によって開かれた日蓮宗の寺です。初めは碑文谷法華寺（現、円融寺）の末寺でしたが、元禄の頃、不受不施問題の影響を受けて身延山久遠寺末になりました。

仙台の伊達家との関係が深く、4代藩主綱村の生母である三沢初子が本寺住職4世日猷、5世日登両上人に深く帰依し、客堂や庫裡等は初子の邸宅が寄進されて建てられたといわれています。初子は浄瑠璃や歌舞伎で有名な「伊達騒動」の登場人物「千代萩の政岡」のモデルともいわれる人物です。また、綱村も生母初子の菩提を弔うため当寺へ特別の保護をしたといい、現在も伊達家の紋の入った建具などが残されています。

なお、鬼子母神堂には伝教大師作と伝えられている鬼子母神像が、祖師堂には11代將軍

徳川家斉が江戸城中で深く帰依していたという日蓮聖人木像が安置されています。

墓地には三沢初子の墓（都指定文化財）があり、境内には6代目尾上梅幸の弟子尾上梅朝が演じた先代萩の政岡を元に、昭和9年（1934）に建てられた初子の銅像があります。

③ 中目黒八幡神社

旧中目黒村全体の鎮守で、菅田別命（応神天皇）を主神とし、天照大神を合祀しています。

創建以来、幾度か火災にあい記録や資料に乏しく、創建年代は不明です。現在の建物は堂々とした八棟づくりで昭和11年9月の落成です。この神社は昔から十二座の神楽を奏することでお有名で、今でも毎年9月の例大祭（第3の土、日）には演目十二座の神楽が奏されています。

また境内には高さ30mをこえる榎の名木や、いちょう、けやき、しいなどの古木が茂り、泉が湧き出ている静寂な環境をつくっています。

鳥居をくぐって右手には、ご神水が湧き出ています。こんな都心で湧水が出るなんて！ 早朝や休日には、ペットボトルを大量に持ち込んで汲んでいらっしゃる方もいます。時には列を成すほどです。

④ 天祖神社

創建の詳しい年代は不明、とのことで、古くからこちらにある神社であることは間違いないか、と。今の社殿は昭和8年のもの。庚申塔は1700年代初頭の制作となっています。庚申像は道標を兼ねていて元は神社前の道にあった。「これより町さき四辻、大道、九品仏道、右せたがい道、左ふどう道」とあり、「せたがい」は世田谷、「ふどう」は目黒不動のこと。

神社前の駒沢通りの坂を「けこぼ坂」というそうです。これは”けこぼ”が坂の両側から土の塊がざらざらこぼれて道幅を狭めるような状態の目黒の古い方言だからだそうです。神社の周辺、現在の上目黒2丁目を中心とする一体を「伊勢脇」という。

⑤ 祐天寺

v浄土宗の名刹として知られ歴史の重みを感じさせる古びた山門や広い境内。開山は江戸中期の名僧祐天上人ですが、実際に寺を創建したのは高弟の祐海上人でした。八代 将軍吉宗より「明顕山祐天寺」の寺号が授与され、以来、将軍の浄財喜捨や特別の保護を受けるなど、徳川家と因縁のある寺として栄えてきました明治27年火災で由緒ある本堂などを焼失しましたが、同31年に再建されたものをさらに改築したものです前部に祐天寺の紋、奥の頭貫に徳川家の葵の紋が彫られ

欄間の彫刻もすばらしいです

⑥ なべころ坂

昔、鍋が転がるほどの急坂であったことからこの名がつけられたとする説と、「なべごろ」とは赤土が水でやわらかくなった状態を示す、目黒の古い方言であったとする説がある。

⑦ 藤の庚申

この2基の庚申塔は古くから「藤の庚申」と呼ばれています。昔、ここに藤の大木があっ

たことからつけられた愛称です。今も碑の後ろに小さな藤の木があり、春には美しい花をつけます。左側の駒形の碑は1m以上もあり、合掌六臂〔がっしょうろっぴ〕の青面金剛〔しょうめんこんごう〕と日月、二鶏、三猿の図柄が彫られています。また「為両親二世安樂也」という願文や造立された年を示す「貞享元甲子年十月下旬」（1684年）の文字が刻まれています。

⑧ 現代彫刻美術館T

中目黒の閑静な住宅街にある、宗教法人長泉院が開設した美術館。昭和53年（1978年）に庭園式の第1、第2野外展場を開設したのに始まり、その後本館建物が完成、その後も、第3、第4野外展示場を開設し現在に至る。峯田敏郎、吉野 毅ら現代彫刻家の作品を展示し、若い作家の作品の企画展示など。所蔵品250点を越える作品（作家56人）の中から、常時約150点を展示。

⑨ 馬喰坂庚申塔

江戸時代、この辺りの農村では更新信仰が盛んであったようです。各集落ごとにこの人たちが当番（根がら）の家に集まって青面金剛をまつり、長寿や豊作を祈って飲食をともにしながら、夜を明かしました。この4基の庚申塔は3年18回の集まりを終えて、その供養や記念のために施主名を刻み建てたものでしょう。

庚申塔群に、向かって右から二番目の板碑型碑は、延宝8年（1680）の銘があり、下部に三猿を浮彫りにし、願文がなく戒名だけが刻まれている珍しいものです。一番右の駒型碑は宝永7年（1710）、三番目の駒型碑には宝永3年（1706）の銘があり、ともに合掌六臂の青面金剛と日月、二鶏、三猿が浮彫りにされています。一番左の駒肩碑は、寛保2年（1742）のもので、三猿は小さく、日月を包む瑞雲が八字形の底を形づくっています。

⑩ 十七が坂

宿山と目黒不動尊を結ぶ庚申道の難関がこの坂越えであったという。そのため、この坂道を利用するのはもっぱら若者ばかりで、老人や子どもは坂下から西方へ迂回して藤の庚申で庚申道に合流する回り道を利用したという。あまりに急であったため、子どもが坂道の途中でころぶと、17歳になったとき不祥事が起きるとい話が坂名の由来と伝えられる。

⑪ 十七が坂庚申塔

江戸時代の農村では庚申信仰がさかんで各集落に講があり、その寄進で庚申塔が建立されました。庚申塔には青面金剛（しょうめんこんごう）や三猿、年号、建立者名などが刻まれている、村の歴史や人々の生活などを知るための貴重な資料です。この庚申塔は前の十七が坂上にあるので「十七が坂上庚申塔」と呼んでいます。

墓地の中でひと際目立ち、高さ2メートル余もある宝篋印塔型（ほうきょういんとうがた）の庚申塔は、寛永3年（1626）に建立されたもので都内でも古いもので菅沼一族8名の名があります。また、この塔の前の板碑型庚申塔には明暦3年（1657）の年号と、その下に17人の建立者名が刻まれています。→山手通り

⑫ 田道庚申塔群

延宝5年(1677年)から正徳3年(1713年)までの庚申塔6基と、延宝えんぼう元年(1673年)の地蔵1基が一か所にまとまって残る珍しいものです。屋根が掛けられ、保存状態も良好です。庚申講が現在も続いていて庚申塔を守り伝えています。田道橋→目黒川風の道→【ランチ予定】

⑬ 目黒寄生虫館T

世界で唯一の寄生虫の博物館。寄生虫に関する研究・展示・資料収集・鑑定・啓蒙活動等を行っている入館料は無料。珍しさと怖いもの見たさからデートスポットになっているほか、サブカルチャーの分野で取り上げられることも多い。→不動公園T

⑭ 目黒不動尊(五色不動)

長い歴史を持つ天台宗の寺。808(大同3)年に慈覚大師円仁が不動明王の夢告を得て、自ら不動尊像を彫刻安置した事に始まる。ご尊像は秘仏として12年に一度、酉年にご開帳される。江戸時代には徳川三代将軍家光が帰依し、庶民に「目黒のお不動さま」といわれ親しまれ、「五眼不動」のひとつとして名所となった。毎月28日に行われる大縁日に当時の面影を偲ぶことができる。十二支による生まれ年ごとの守り本尊、縁結びの愛染明王、山手七福神巡り初めの恵比寿神、サツマイモを広めた甘藷先生こと青木昆陽の墓もある。

→石古坂

⑮ 林試の森公園T

明治33年(1900年)6月に当時の農商務省林野整理局が「目黒試験苗圃」としてスタートしたのが始まりで、その後「林業試験場」に名称を変更、林野庁の付属となり昭和53年まで営々として使用されてきました。そして、筑波研究学園都市の建設に伴い、移転した跡地を整備し、「目黒公園」の暫定開放期間を経て、平成元年6月1日に「都立林試の森公園」として生まれ変わり開園しました。→小山台公園T→26号線通り

⑯ 清水池公園T

目黒区内最古の公園のひとつであるといわれております当地が農村だった江戸期から昭和初期にかけて、水田灌漑用の貯水池として大切に管理されてきた貴重な水源でし現在は暗渠化されて緑道となっていますが、共に立会川の水源でもありました

⑰ 碑文谷鬼子母神

この鬼子母神堂は元和名2年(1616)この地の、安藤藤八と言う人が、村人の幸福と子孫の繁栄を願って鬼子母神と十羅刹女を勧請して、建立したと言われる。(付近の立会川に羅刹橋という橋がかかっていた)。堂内には鬼子母神夫婦に十羅刹女の像が安置され、ほかに題目板碑などが保存されている。→立会川(暗渠)緑道

⑱ 円融寺T

今から約1150年前、平安時代の仁寿3年(853)、慈覚大師による創建と伝えられる天台宗の古刹です。草創当時は法服寺と名付けられましたが、鎌倉時代の弘安6年(1283)に、日

蓮上人の高弟である日源上人によって日蓮宗に改宗され、寺号も法華寺と改められます。この日蓮宗時代は江戸中期までの約 400 年間続き、寛永年間前後には江戸近郊屈指の名刹として知られました。しかし、法華経の信者以外に布施を受けず・施さないという、いわゆる不受不施派の主義が幕府の忌諱にふれるところとなり、法華寺は取り潰しにあいます。

こうして、元禄 11 年(1698)に再び天台宗に改宗され、はじめは東叡山寛永寺の末寺、のちには比叡山延暦寺の末寺に属しました。やがて天保 5 年(1834)には円融寺と名が改められて現在に至っています。

国の重要文化財に指定されている東京都区内最古の木造建築「釈迦堂」の建築年代は室町時代とされています。釈迦堂にある永禄 2 年(1559)の作「黒漆塗りの仁王像」は東京都の有形文化財で、江戸時代中頃は「碑文谷の黒仁王」として人々から親しまれました。

⑱ 碑文谷八幡宮

創建年代は不詳であるが、鎌倉時代に源頼朝の家臣、畠山重忠の守護神をその家臣筋で当地に住んでいた宮野左近という人物が祀ったのが始まりであると言われている。現在の社殿は延宝 2 年(1674 年)に造替したものを明治 5 年(1872 年)に再建し、同 20 年(1887 年)に改築したもの。神社には畠山重忠の家臣榛沢六郎という人物を祀った稲荷社と「碑文谷」の名の起こりともいわれている、碑文石が保存されている。そのほかにも勝海舟直筆の「八幡大神」の額なども保存されている。また、桜の時期になると一の鳥居から二の鳥居までの間が桜の花で溢れ、桜の見所にもなっていることでも知られている。→サレジオ通り

⑳ サレジオ教会

1954 年 5 月 22 日に落成。36m 余の鐘塔を備えたロマネスク様式の大聖堂で、1708 年に来日し、小石川切支丹屋敷にて死去した宣教師ジョヴァンニ・シドッティ師を偲ぶカルロ・ドルチのマリア像「悲しみの聖母」(江戸のサンタ・マリア)が内部に掲げられている。延床面積は 752m²。鐘はミラノの信者から寄付されたもので、ラ・ド・ミの美しい音色を奏でる。1985 年、神田正輝と松田聖子が当教会で挙式。立会人は渡哲也。「聖輝の結婚」と報道された。→錦さくら通り

㉑ すずめのお宿緑地公園

この地に住んでいた角田さんの遺志により、角田さんの没後国に返還された土地を目黒区が借り受けて整備し、公園としたもので、昭和 56 年(1981 年)に開園した。

ユニークなこの公園の名称は、かつてこの地域がタケノコの産地であり、スズメが群棲していたことにちなんでいる。現在でもスズメや野鳥が多く、約 7500 m²の園内には竹林が茂っていてその中に散策道が整備されている。

住宅地の中にあるため静かな雰囲気にも包まれており、園内の一角には江戸時代中期に建てられたと推定される古民家の旧栗山家住宅が移築復元されている。→環七通り→呑川緑道→メトロ東急東横線「都立大学駅」解散